

## 米国 予想外の上昇もトレンドを示す数字は製造業部門の鈍化傾向を示唆 (10年8月 I S M製造業景気指数)

発表日：2010年9月1日 (水)

～製造業部門は世界的に緩やかに拡大ペース鈍化～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治  
03-5221-5001

**I S M製造業景気指数  
は56.3と前月比+  
0.8%上昇し市場予想を  
上回った**

8月のI S M製造業景気指数は56.3と市場予想の低下に反し前月比+0.8%上昇した(市場予想中央値52.7)。入荷遅延(前月比▲0.3%ポイント)、新規受注(同▲0.1%ポイント)が押し下げ寄与となった一方、生産(同+0.6%ポイント)、雇用(同+0.4%ポイント)、在庫(同+0.2%ポイント)が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+0.8%ポイント上昇した。さらに、拡大した業種数が11業種(前月10業種)と増加した。拡大縮小の分岐点である50を13ヵ月連続で上回っているうえ、依然高い水準を保持しており、製造業部門は堅調さを維持している。もっとも、景気対策効果の息切れや、在庫復元の一巡、ハイテク循環のピークアウト等を背景に、製造業部門の回復ペースは鈍化傾向を辿っている。

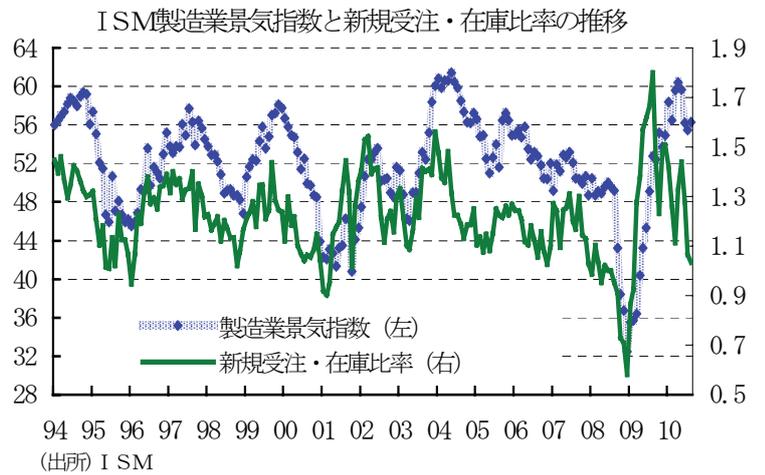
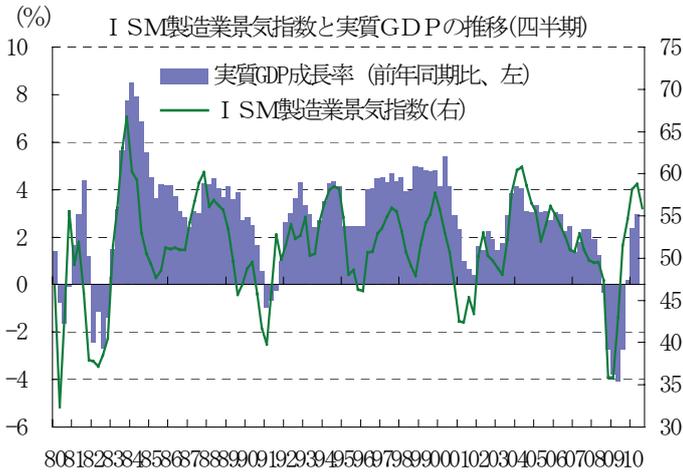
予想を上回った同統計の発表直後の市場では、株価、10年債利回りは上昇した。為替市場ではドルは対円で強含んだが、それでも1ドル=84円台と円高水準変わらず。

I S M (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
09/11	53.7	61.5	60.2	49.6	41.4	55.7	52.0	55.0	56.0	51.5
09/12	54.9	64.8	59.7	50.2	43.0	56.8	50.0	61.5	54.5	55.0
10/01	58.4	65.9	66.2	53.3	46.5	60.1	56.0	70.0	58.5	56.5
10/02	56.5	59.5	58.4	56.1	47.3	61.1	61.0	67.0	56.5	56.0
10/03	59.6	61.5	61.1	55.1	55.3	64.9	58.0	75.0	61.5	57.0
10/04	60.4	65.7	66.9	58.5	49.4	61.3	57.5	78.0	61.0	58.0
10/05	59.7	65.7	66.6	59.8	45.6	61.0	59.5	77.5	62.0	56.5
10/06	56.2	58.5	61.4	57.8	45.8	57.3	57.0	57.0	56.0	56.5
10/07	55.5	53.5	57.0	58.6	50.2	58.3	54.5	57.5	56.5	52.5
10/08	56.3	53.1	59.9	60.4	51.4	56.6	51.5	61.5	55.5	56.5

**I S M製造業景気指数は  
11年前半にかけて緩や  
かな低下傾向を辿る公算**

今後に関しては、景気対策効果の息切れや、在庫復元の一巡、ハイテク循環のピークアウト等による生産活動の鈍化傾向によって、I S M製造業景気指数は低下を続けると見込まれる。期間は、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が09年8月のピーク以降1年にわたり低下していることから、2011年前半にかけて低下傾向を辿ることが示唆されている。

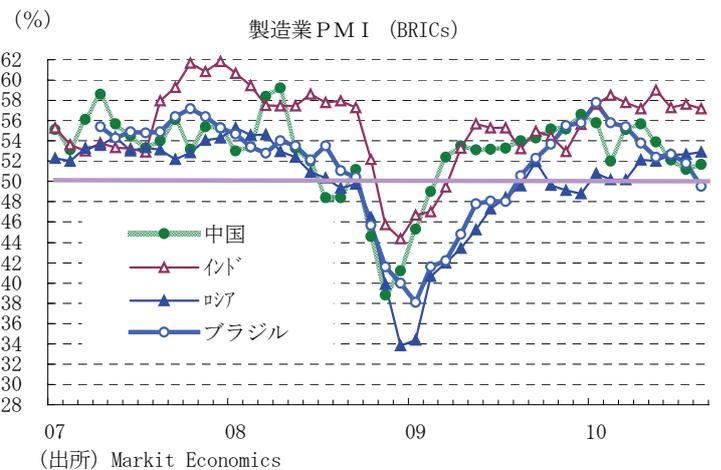
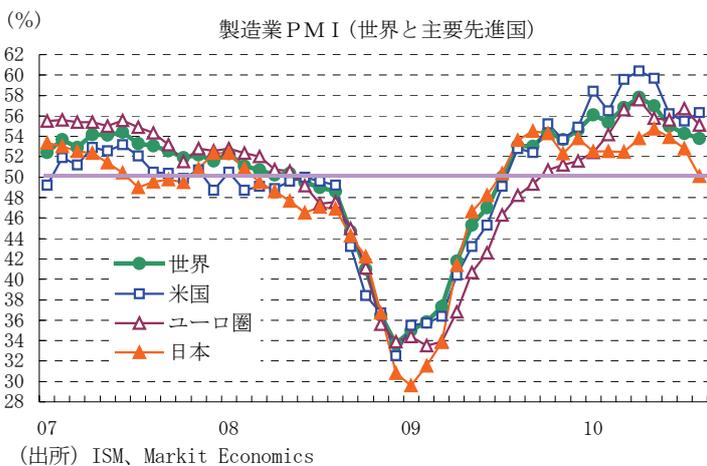


**世界製造業景気指数の水準は依然高く緩やかな鈍化傾向を示唆**

輸出受注DIが8月に55.5と前月比1.0%ポイント低下したが拡大縮小の分岐点である50を大幅に上回っており、新興国、日本、ユーロ圏など世界経済の拡大持続によって米国の輸出増加が続いていることを示唆している。

8月の各国の製造業景気指数をみると、先進国ではユーロ圏は前月から低下したが11ヵ月連続で50を上回り水準も高い。日本は50割れ目前まで低下しており製造業部門が勢いを弱めていることを示唆している。新興国では、インドが前月から小幅低下したが高い水準を維持した。ロシア、中国は前月比で上昇した。一方、ブラジルは50を下回り縮小に転じた。

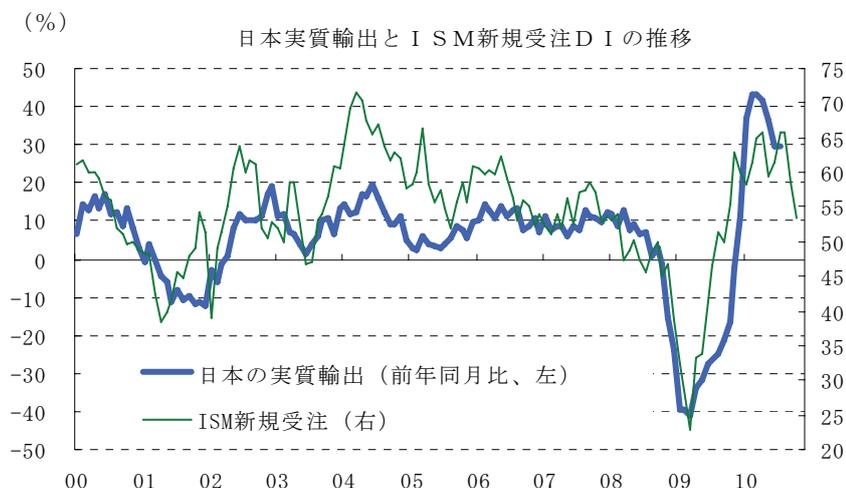
各国の数値を合成した世界製造業景気指数は8月に53.8（前月54.3）と前月から小幅低下にとどまり、高い水準を維持している。このことから、製造業部門は世界的に拡大ペースが鈍化しているものの堅調さを維持していると判断される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**各国の米国向け輸出の  
拡大ペースは年後半に  
鈍化が予想される**

遅れて動く傾向がある輸入D Iが8月に56.5と前月比4.0%ポイント上昇したが、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注D Iが53.1と前月比▲0.4%ポイント低下し水準を切り下げていることから、日本を含む先進各国や、BRICsなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、年後半に鈍化すると予想される。

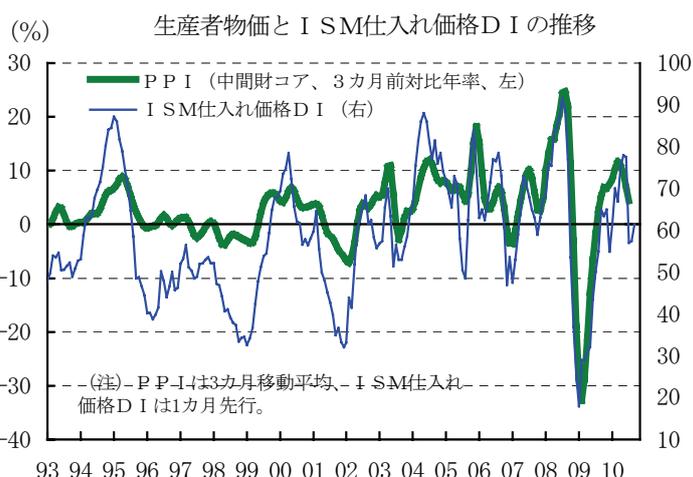
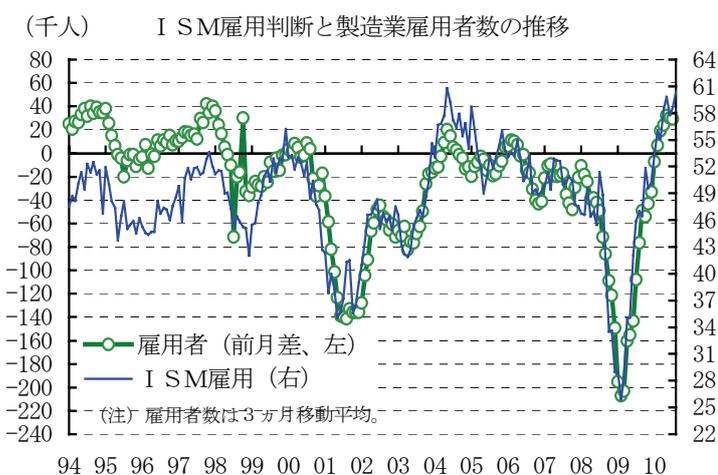


**雇用DIは60.4と8  
月の製造業雇用の増  
加幅拡大を示唆**

雇用D Iが60.4と前月比1.8%ポイント上昇したため、8月の製造業雇用者数は増加幅を小幅拡大すると予想される。ただし、価格競争の激化の中でコスト削減圧力は強く、今後も製造業部門での雇用の増加ペースは緩やかなものになると見込まれる。

**仕入価格DIは61.5  
と川中でのインフレ  
圧力は弱まったまま**

仕入価格D Iは、61.5と前月比4.0%ポイント上昇したが上昇の勢いは弱まったままである。二番底懸念などを受けた商品価格の下落によって川中でのインフレ圧力が弱まっており、今後企業収益を下支えする要因となろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。